〔日本書紀二十七天智〕元年正月丁巳、賜百濟佐平鬼室福信矢十萬侯、絲五百斤、綿一千斤、布一千端、韋一千張、稻種三千斛、

〔東大寺正倉院文書十〕大倭國天平二年大稅帳

山邊郡

天平元年定、大稅穀捌仟捌伯伍拾伍斛貳升捌合、略中

穎稻貳仟壹伯肆拾肆束略中　用貳伯束赤春米四斛料八十束、小麥一斛直廿束、賀麻伎種稻百束、

〔倭訓栞中編二伊〕いなむしろ略中　後の歌には、稻の筵に似たるをも、稻を筵にしくをも、又稻こくに用うるわら筵をいへり、

〔夫木和歌抄十二秋田〕田のうへの月　西行上人

夕露のたましくを田のいなむしろかへすほずるに月ぞやどれる

秋田　中原師光朝臣

いなむしろしくや門田の秋風に民のみつぎをいそぐ比かな

稻初見

〔日本書紀一神代〕一書曰、略中天照大神、復遣天熊人往看之、是時保食神實已死矣、唯有其神之頂化爲牛馬、略中腹中生稻、略中天照大神喜之曰、是物者則顯見蒼生可食而活之也、乃略中以稻爲水田種子、又因定天邑君、卽以其稻種始殖于天狹田及長田、其秋垂穎八握莫莫然甚快也、

稻種類

〔古事記上〕食物乞大氣津比賣神、爾大氣都比賣自鼻口及尻、種種味物取出而、種種作具而進時、速須佐之男命立伺其態、爲穢汚而奉進、乃殺其大宜津比賣神、故所殺神於身生物者、略中於二目生稻種、

〔草木六部耕種法十二需實〕撰稻種秘訣

稻種ハ其品類極テ多ト雖ドモ、古代ハ出雲稻四種、古志稻二種、日向稻四種、笠縫稻二種、都合十二種ノミ、後世ニ至ルニ及テハ濫名頻リ興リ、紛錯混亂殆ド記載スベカラザルニ至レリ、略中所謂